

コミュニケーションの機能から見た小学校英語教育  
～「要望・依頼」の機能に関する一考察～

Primary School English Education from the Viewpoint of Communicative Language Functions:  
Some Thoughts on the Function of Requesting to be Performed by Fifth and Sixth Graders

福島美枝子

FUKUSHIMA Mieko

言語のコミュニケーション上の機能に着目すると、文法と語彙だけに集中している時よりも有効な学び方が可能であり、語用論的な視点を導入することによって言葉の働きへの理解も深まる。これは大人に関しては確かに言えることだが、日本の小学校で英語を学ぶ児童に関してはどうだろうか。水島(2017)が指摘しているように、日本の英語の教科書は語用論的な情報が乏しく、コミュニケーション機能の扱いも限定的である。本稿では改めて小学校英語教育の文脈を取り上げ、二つの問題を明らかにしたい。ひとつは、小学校で扱われるべきコミュニケーション機能およびそれを担う言語形式の問題であり、英語の母語話者の乳幼児期の言語発達を参考にして考察する。もうひとつは、コミュニケーションの機能から見た現在の小学校英語教育の現状を明らかにしてみたい。そのために、文部科学省の「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック 実習編」で提供されている教師用の英語と、5～6年生のために開発された検定教科書を分析する。結果として、子どもの世界に合う内容ではあるが、主に互いを知る機能を持つ定型会話や発表文を練習して使えるようにすることに主眼があり、共同作業の中で相手に何かをしてほしいと頼むとか、困った時に相手に相談するとかいった場面が少ないように思われる。定型会話や発表文は「学ばれるべき対象」であって、それを出発点として教室でのコミュニケーションがあるだけという状況にもなり得る。相手への「要望・依頼」というものが命令文や“Can you...?”の形で表現されるような教室づくりが必要ではないだろうか。

キーワード：小学校英語、コミュニケーション機能、母語の発達、  
MEXT Channel、検定教科書、語用論的外国語教育法

## 1. はじめに

言語のコミュニケーション上の機能 (communicative language functions, 以下「コミュニケーション機能」) に着目した学び方や教え方は、1980年代から盛んになり、大人用の英語学習教材には各課の学習項目を具体的なコミュニケーション機能を中心にして、または文法や語彙と並列にして編成しているものが多く見られる。

それぞれのコミュニケーション機能を果たす言語形式は複数存在し、次の「アドバイスする」(giving advice) 機能に見られるように、それらの言語形式を質の観点から分類することもできる。ここでの分類法(分類項目とイタリック体の言語形式)は Yanase and Green (2008) を参考にしている。

### 1. Question form (提案したいことを実際にしたかどうかを訊く)

*Have you talked to your teacher to ask for advice?*

### 2. Suggesting in a weak form (弱い形の提案)

*It might be a good idea to use TED for your study.*

*It might not be a bad idea to take a couple of days off, if possible.*

*You could consult an English-English dictionary.*

### 3. Suggestions (提案)

*How about taking a break for half an hour to get refreshed?*

*Why don't you come to my office to show me your first draft?*

*If I were you, I'd call my friend first to apologize for that.*

### 4. Giving advice in a strong form (強い形の忠告)

*You should come 10 minutes before the meeting starts.*

*You must do it right away.*

### 5. Tactics (戦術的に同調してから忠告する)

*It's really difficult, I know, but I think you should talk to your parents.*

*I had the same problem, so I know how you feel. You could think about how important your relationship is.*

### 6. Referring to information source (根拠となる情報源に言及)

*I am not an expert myself, but they say healthy adults should do 150 to 300 minutes of moderate exercise each week.*

*According to an article I read the other day, you can learn more by participating in a discussion than by merely listening to a lecture.*

### 7. Advice from professionals (専門家としての忠告)

*I'd recommend that you walk one hour every other day.*

*I'd advise you to improve your eating habits.*

大人の学習者は、外国語としての英語教育を受ける中でこうしたリストを与えられたり、または自ら普段英語に触れてきて知りえた形をまとめてみたりすることで、表現の機能的多様性に気づくとともに、当該の機能において自身のレパトリーとしておきたいものやチャンスが来たら使ってみたいと思うものを意識することができるだろう。

これに対して、日本の小学校で外国語としての英語を学ぶ5年生や6年生の子ども達はどうだろうか。英語だけではなく母語においても発達途上であるため、まずは母語においてそれぞれのコミュニケーション機能とそれを表す言語形式がどの程度発達しているのかという点を考えてみなければならない。本研究では、日本語が母語である子ども達ではなく英語が母語である子ども達を対象にした Jerome Bruner (1983) と Peter A. Reich (1986) の研究を参考にし、前言語期からその発生を見ることも可能な「依頼」(requesting)の機能に焦点を当て、日本の小学校英語の教育的・言語的環境における語用論的アプローチを探ってみたい。

## 2. 母語における「要望・依頼」(requesting)の機能の発達

子どもの言語発達に関する伝統的な見方では、子どもがひとつの単語を発する時期から言語期が始まり、それまでの喃語期とは不連続であると考えられている。筆者が過去の研究 (Fukushima 1989) で示したように、その不連続性を強く主張する Mcneill (1970) の研究や、子どもの言語発達を考える際に単語をどう定義するかという問題があることを指摘した Grieve and Hoogenraad (1979) の研究などがある中で、Bruner (1983) は、生後2年間の二人の男児に関する資料をもとに、母子の相互作用、子どものコミュニケーション機能の発達、概念と文法形式の対応という三つの観点から、前言語期と言語期の連続性を唱えた。言語習得は生得的な能力によるものか、それとも生まれてからの経験によるものかという点では、Bruner (1983) は徐々に発展し複雑化していく具体的な母子の相互作用のフォーマットを包摂する「言語習得支援システム」(Language Acquisition Support System) と「言語習得能力」(Language Acquisition Device) の相互作用によって言語コミュニティに入って行けるようになる」と説いている (1983:19)。

二児の言語習得について Bruner (1983) が発話行為論 (speech acts theory) に基づいて着目したコミュニケーション機能は、「命名」(reference) と「要望・依頼」(request) である。前言語期の発声の解釈では、どの程度子ども自身が意図的に発しているかという問題と育児者の解釈という要因に考慮しなければならない。「要望・依頼」に関しては、この子は何をしてほしいのかと常に考えている育児者の解釈とそれへの応答的行動が働くはずである。この育児者や周りの大人の解釈という点においては、2歳児の二語文でも同じであり、例えば「ママ、ジューチュ」と言うと、文脈を手掛かりにして例えば「この子は

ジュースを飲みたがっている、でも自分の力では（冷蔵庫から）取り出せないの取ってほしいと訴えているのだろう」というふうに意図を解釈してもらえるわけである。

例として、Bruner (1983) は Richard (男児の一人) の「ものを要望する」言語行為に関して、発達順として次の諸項目を捉えた。ほしいものに手を伸ばす → いらついたり、つかもうとして声を発する → “heaah” と叫ぶ → はっきりと “ghee” と発音する → 文のような音連鎖 “n-gah-gho-ah-di” → apple を意味する “bauble” (と言って好きなリンゴの絵の入った棚の本に手を延ばす) のような特異な語彙 → Want the mouse を意味する “Heaah moo-louse” のような “heaah” または “ghee” と語彙の組み合わせ → more mouse のような意味の繰り返しや、Richard cake のような意味の所有を意味する二語の組み合わせ (1983: 95-96)。

一般に、他者に何かをしてもらうために「要望・依頼」を直接的に表すのは命令文であるが、先に見た「アドバイスする」機能と同様に間接的な表現が多く用意されており、丁寧さを表現したり、相手からの拒否をできるだけ避けようとする意図を働かせたりすることができる。次は、外国語としての英語を学ぶ大人の観点から見た場合の英語による「要望・依頼」の一在庫目録である。すべての表現形式を我が物にする必要はないと思われるが、話し言葉や書き言葉による自身の英語コミュニケーションにはどんな文脈があるか、それぞれの文脈でどの程度の丁寧さが必要か、どの程度相手の拒否を案ずるのか、といった点で、間接度合いの異なるいくつかのパターンを身につけておくとう便利である。

1. *I need some Kleenex.*
2. *Have you got a quarter, by any chance?*
3. *Can you help Takahiro out of his clothes?*  
(Can I ask you to help Takahiro out of his clothes?)
4. *Could you lend me your dictionary?*  
(Could I borrow your dictionary?)
5. *Do you think you could lend me a dollar?*
6. *I wonder if you could lend me your bus pass.*
7. *Would you mind helping me (to) wash my car?*
8. *I would be grateful to receive a reply as soon as possible.*  
*I would very much appreciate receiving a copy of the book.*  
*I would be grateful if you could postpone the deadline.*  
*I would appreciate it if you could/would postpone the deadline.*  
*It would be greatly (much) appreciated if you could return the forms by July 6.*

9. *Could you possibly lend me your bicycle?*  
*Would it be possible for you to lend me your bicycle?*
10. *Do you think you could possibly lend me your bicycle?*
11. *I wonder if you could possibly lend me your bicycle.*
12. *I hope you don't mind my asking, but I wonder if it might be at all possible for you to lend me your car.*

Reich (1986) は、先行研究を援用し、母語話者の場合、3歳6か月から4歳4か月の子ども同士の会話にも次のような間接的な表現が用いられていると述べている。ただし、頻度としては直接的な命令形の頻度が高く、4歳7か月の子ども達の間では1回のやりとりの間で使われる間接的な「要望・依頼」は直接的なその8分の1程度であることを指摘している (1986:179)。

(疑問文の形)

Can you take the baby?

Wanta get on my car?

Will you put this hummer in for me?

Why don't you tickle me?

(叙述または命令文の形)

I need that pencil.

I want a purse.

You have to call.

Pretend fishy was mine.

以上、Bruner (1983) と Reich (1986) の研究を中心にして英語の母語話者の乳幼児期の言語発達における「要望・依頼」の機能について見てみた。外国語習得は母語習得から完全に類推できるものではないが、英語の母語話者で見られる現象が日本語の母語話者にも当てはまるとすれば、「要望・依頼」は外国語としての英語の習得において小学校段階で触れられて良いものであること、そしておそらくは、少なくとも周りの大人がインプットとして与えるものとして、Reich (1986) が示したような間接的な言い方にも踏み込んで良いのではないかということである。

### 3. 小学校英語の現状に関する一考察

水島梨紗 (2017) によれば、語用論的な観点から教材の検証を行ってきた先行研究に

よって日本の英語学習者が使っている検定教科書などには語用論的アプローチが活かされていないことが指摘されてきた。水島は、その具体的な問題として4点挙げている。まず、コミュニケーション機能もそれを伝える言語形式も限定的にしか扱われていない。次に、文法教育のために文脈を無視した短文が使われていて、「言語の働きをめぐる自然な談話の流れが身に付かない」。さらに、友人同士のカジュアルな場面での会話例が多く、様々な状況に対応できにくくしている。また、語用論的な解説が乏しい (2017: 138-139)。こうした指摘が小学校の英語教育にも当てはまるかどうかを、教師の研修用に開発された MEXT Channel の「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」と現在利用可能な5種の検定教科書(5~6年生用)で使われている言語項目を調査することで考察してみたい。

### (1) 教師が授業で話す英語

教室で使う教師の言葉は「要望・依頼」の宝庫である。Requesting は Getting things done とも表現される。教師が出すいわゆる「指示」は児童・生徒・学生に何かをさせるためのものであり、直接的な命令文などが使われる。

文部科学省の「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック 実習編」は、教師が馴染むべき英語を4つのカテゴリーに分けてリスト化し、それに即した CD と MEXT Channel によって音声および映像の資料を提供している。分類されているのは、教師が授業で使う「クラスルームイングリッシュ」、担任が ALT と意思疎通を図るための「基本英会話」、高学年の教材に設定される児童同士や教師との言葉のやりとりである「Small Talk」、そして英語の音声的特徴を身につけるための「スピーキング・トレーニング」である。本論の目的のためにここでは「クラスルームイングリッシュ」を取り上げてみよう。それは、「授業の始まり」、「活動中」、「聞くことを中心とした活動」、「ほめる」など12の側面に分けられ、総計で187の言語項目(主に一つの単文)が列挙されている。そこには高い頻度で命令文が出てくる。例として、“Sit down.” “Stand up.” といった初級程度のものから、知っていなければなかなか口から出て来ない “Put your desks together.”なども含まれている。特徴的なのは、命令文以外の形が使われていないことである。実際に英語で話すことに慣れている教師なら、自然な形で “Can you....?” や “Could you ....?” も発話するのではないと思われるので、教師自身が英語の話し手として成長していく必要がある。

### (2) 検定教科書に見られる表題と主な表現

次ページの表1は、5年生のための英語検定教科書を各課の表題とそこで扱われている言語項目からまとめたものである。表題の観点からは、これら5冊の教科書が基本的に類似した内容を扱っていることが分かる。ここにまとめた個別的な表現とやりとりのパタ

ーンをコミュニケーション機能から見てみると、多くはクラスメイトや先生について「情報を得る」(getting information) 機能、すなわち相手をより良く知る働きで言葉が使われている。その他に、レストランで注文するとか道順を尋ねる・教えるといった状況志向的で実用的な機能も共通して扱われている。

表1 5年生の検定教科書 (太字が教科書に記載されている表題)

Junior Sunshine 5 (KAIRYUDO)	ONE WORLD Smiles 5 (KYOIKU SHUPPAN)	Here We Go! 5 (MITSUMURA TOSHO)	CROWN Jr. 5 (SANSEIDO)	NEW HORIZON Elementary English Course 5 (TOKYO SHOSEKI)
<p><b>1. Nice to meet you.</b> Hello ~. Nice to meet you. I'm ~. I like ~.</p>	<p><b>1. Nice to meet you.</b> What color/sport/animal/vegetable/TV program do you like? I like ~. How do you spell your name? M-I-K-A. Hello. My name is ~. I like ~. I want ~. Thank you.</p>	<p><b>1. Hello, everyone.</b> What color/fruit/sport/TV program do you like? I like ~.</p>	<p>HOP: <b>Hello!</b> (listening to four people's self-introduction: I can ~. My birthday is ~.)</p>	<p><b>1. Hello, friends.</b> What's your name? ~. How do you spell your name? S-A-T-O-S-H-I. What color/sport/food/fruit do you like? I like ~. Nice to meet you. Nice to meet you, too. I'm ~. My family name is ~.</p>
<p><b>2. When is your birthday?</b> When is your birthday? My birthday is ~. What ~ do you like?</p>	<p><b>2. When is your birthday?</b> When is your birthday? My birthday is ~ ~. What season do you like? I like ~.</p>	<p><b>2. When is your birthday?</b> When is your birthday? My birthday is ~ ~. What do you want? I want a pink pencil case.</p>	<p>STEP: <b>I have many yo-yos.</b> I have ~. I like ~. I don't like ~. My birthday is ~ ~. Can you ~? Yes. / No. I can ~. I can't ~.</p>	<p><b>2. When is your birthday?</b> What day is it today? When is New Year's day? When is your birthday? My birthday is ~. What do you want for your birthday? I want a ~ ~. This card is for you. Here you are. Thank you.</p>
<p><b>3. What do you have on Mondays?</b> What do you have on ~? I have (Japanese, math, science, and music). What subject do you like? I like ~.</p>	<p><b>3. I have P.E. on Monday.</b> (School TV で夢の授業) I study ~ with ~. (将来の職業と教科の勉強) (夢の時間割の発表)</p>	<p><b>3. What do you have on Monday?</b> What subject do you like? I like ~. / My favorite subject is ~. What do you have on ~? I have ~, ~, and ~.</p>	<p>JUMP: <b>I can jump high.</b> Hello. My name is Misato. My birthday is on February 20th. I like music. I can play the guitar. Thank you.</p>	<p><b>3. What do you want to study?</b> Do you like rainy days? Yes, I do. / No, I don't. What subject do you like? I like ~. What do you want to study? I want to study ~. What do you want to be? I want to be a ~. Good luck!</p>
<p><b>4. Can you do this?</b> Can you swim? Yes, I can. / No, I can't. I can jump rope/swim/play the piano.</p>	<p><b>4. This is my dream day.</b> What time do you get up? I get up at ~. I always/usually/sometimes/never ~.</p>	<p><b>4. What time do you get up?</b> I always/usually/sometimes/never ~. What time do you get up? I usually get up at ~.</p>	<p>HOP: <b>Hello, Mr. Sano!</b> (Giving a "Who am I?" quiz and listening to Yuta's interviews with two teachers.)</p>	<p><b>4. He can bake bread well.</b> Can you cook well? Yes, I can. / No, I can't. Can you play badminton? Yes, I can. / No, I can't. This is ~. S/he can ~. Who is this? This is ~. Who is ~? He is my ~. He is a ~. He can ~ well.</p>

<p><b>5. Where is your treasure?</b> Where is ~? Go straight. Turn right/left. You can see it on your right/left. Where is your treasure? It's on/in/under/by ~.</p>	<p><b>5. I can run fast.</b> I can ~. I can't ~. Who am I? He can swim well. Who is he? What can you do? I can ~.</p>	<p><b>5. He can run fast. She can do kendama.</b> Can you ride a bicycle? Yes, I can. / No, I can't. Kazuki/Ms. Miller/Mr. Hanai can ~. He can ~. Who is he?</p>	<p><b>STEP: She is a cook.</b> He is a baker. She is a farmer. Is he a magician? No, he is not. He is a bus driver. He can fly. He is good at baseball. <b>STEP: I get up at 7:00.</b> What time is it? It's 8:00. I eat dinner at 4:30.</p>	<p><b>5. Where is the post office?</b> Where is my pencil? It's in ~. Where is the library? Go straight for one block. Turn left. You can see it on your right. Thank you. You're welcome. What do you want for your town?</p>
<p><b>6. My Hero</b> S/he is ~. S/he can ~. Who is s/he~?</p>	<p><b>6. Where do you want to go?</b> Where do you want to go? I want to go to~. Why? I want to ~. Hint 1: I can ~. Please guess. Do you want to go to ~?</p>	<p><b>6. I want to go to Italy.</b> You can ~ (in ~). Where do you want to go? I want to go to ~. Why? I want to ~. / You can ~.</p>	<p>What time do you get up/eat dinner/go to bed? I usually ~ at ~. <b>STEP: I play soccer on Mondays.</b> On Wednesdays we have ~, ~, ~, ~ and ~. I like P.E. I play soccer on Tuesdays.</p>	<p><b>6. What would you like?</b> What food do you like? I like ~. What would you like? I'd like ~. OK. ~. How much is the cake? It's ~ yen. 680 yen, please. OK. How many apples do you want?</p>
<p><b>7. Happy New Year</b> 12 animals and a new year's card</p>	<p><b>7. I'd like pizza.</b> What pizza/drink/ice cream would you like? How much? That's ~. What would you like? I'd like ~, ~, ~ and ~.</p>	<p><b>7. What would you like?</b> What would you like? I'd like ~. How much is it?</p>	<p><b>JUMP: He is a music teacher.</b> (interviewing) Hello. May I ask you a question? Yes! (presentation) Please listen. Hint number 1. He is good at cooking. Hint number 2. He can't eat natto. Hint number 3. He is a music teacher. Who is he?</p>	<p><b>7. Welcome to Japan</b> What do you do on New Year's Day? We usually play karuta. What season do you like? I like ~. Why do you like ~? (What do you enjoy in ~.) We have ~ in ~. Do you like kabuki?</p>
<p><b>8. What would you like?</b> What would you like/ I'd like ~. Here you are. Thank you. How much is ~? It's ~ yen. Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.</p>	<p><b>8. Where is the station?</b> Where is the ~? Go straight. Turn ~ at the ~ corner. ... Stop.</p>	<p><b>8. Where is the gym?</b> Where is my cup? It's in/on/under/by ~. Where is the station? Go straight. Turn right at the first corner. You can see it on your left.</p>	<p><b>HOP: Welcome to Japan!</b> (introducing your favorite places and listening to introductions to famous things in Japan)</p>	<p><b>8. Who is your hero?</b> What housework do you usually do? I usually ~. I always/usually/sometimes/never ~. Who is your hero? My hero is ~. Why is s/he your hero? S/he is good at ~. S/he is always ~.</p>

<p>9. <b>I love my town.</b> This is ~. It's famous for ~. I like ~ very much.</p>	<p>9. <b>This is my dream friend.</b> Who is your dream friend? What are you good at? I'm good at ~. S/he is good at ~. Who is he/she? Who is kind/funny/cute/strong/smart/brave? My dream friend の発表</p>	<p>9. <b>My hero is my brother.</b> My hero is Dan Smith. He is my brother. He can play wheelchair basketball well. He is cool.</p>	<p>STEP: <b>It is in the box.</b> Where is the ~? It's on/ in/by/under ~. Put the ~ on/in/by/under ~. Where is Kurobe Dam? It's in Toyama. Where is the school? Go straight for two blocks. Turn left at the hotel. Turn right at the second corner. You can see it on your left.</p>	
			<p>STEP: <b>I want to go to Kenya.</b> I want to go to Spain. I want to eat pizza. I want to go to Hyogo. I want to see Himeji Castle.</p>	
			<p>JUMP: <b>Mt. Fuji is beautiful.</b> This is Okinawa. The sea is very beautiful. You can swim in May! I want to swim in the sea. I want to see Shuri Castle. It is in Naha.</p>	

表中にある学ぶ目標としての英語の中に「要望・依頼」の機能を持つ言語形式に当たるものは見られない。“Can you.....?” が表れてはいるが、これは、できる・できないの能力を訊くものであり、今何かをしてほしいといった要望・依頼の働きで使われているのではない。これらのことは6年生の5種の教科書についても概して同様であるが、コミュニケーション機能の観点から、大きく扱われているわけではないが、いくつか興味深い点がある。まず、教室で児童が使う英語をコミュニケーション機能の観点から巻頭で紹介している教科書がある。例えば 両学年の ONE WORLD Smiles (KYOIKU SHUPPAN) を見てみると、「お礼を言う」、「あやまる」、「ほめる」などの機能を担う簡単な言葉が紹介されており、5年生用の中にドアを閉めてと「お願いをする」機能の表現が挙げられている。また、各課の他に少数のプロジェクトを挿入し、そこで特定のコミュニケーション機能を扱っている教科書が一つある。両学年の Junior Sunshine である。6年生用の最後には「感謝の気持ちを伝えよう。」というプロジェクトが設定され、“I love school lunch. You are a

good cook. Thankyou”-“You’re welcome.”のようなスキット例が紹介され、続いて感謝の手紙を書く活動が設けられている。「要望・依頼」に限定して見てみると、上記の ONE WORLD SMILES 5 の巻頭以外では、Crown Jr. 6 に命令文の形の「要望・依頼」が2か所出てくる。いずれも“Enjoy Reading”という箇所である。そのひとつは、児童のサッカーの試合の場面が描かれているところに、“Get a goal. Go, go, go. (改行) Kick the ball. Go for it. (改行) Kick the ball. Go for it. (改行) Get a goal. Go, go, go.”と書かれている。これは児童の学校生活に直接に繋がる内容である。児童自身がダイナミックに状況を感じ、こうした表現ができるようにするためには、リーディングとしてだけではなく、映像化して提示すると良さそうである。

外国語であっても小学生が相手をより良く知るために言葉を使って質問したり質問に答えたりする活動や、まとまりある内容を発表する活動自体は教育的であり、何ら非難すべきことではなく、状況志向的に選ばれているいくつかの機能（注文する、道順を訊く・示すなど）もしかりである。しかし、今一度、母語話者として乳幼児期から発達していく「要望・依頼」の機能が十分に扱われていない状態で良いのかどうかを問うべきであると考えられる。

ひとつの問題は、子ども達の間で言葉による要望や依頼が生まれる文脈があまり作られていないということは、教え方の特質を物語るものであるという点である。多くの場合、教科書に出てくるやりとりや発表の言葉が「学ばれるべき対象」として存在し、それらを実際に使えるようになることに重きが置かれているとすれば、やりとりや発表のための言語の型を身につけるにとどまっているのかもしれない。例えばタスク中心のアプローチが使われたら、共同作業の中で仲間に要望するとか依頼するといった自然な発話が出てくるのが予想されるが、そうした行為活動を抑制する教え方なのかもしれない。もうひとつの問題は、小学校の時に“Can you....?”に関して能力を訊くという機能にだけとどまっていると、答えとして“Yes, I can.”または“No, I can’t.”としか反応できず、実際にはこれが依頼であった場合に“Sure!”と言って相手の頼みを引き受けるようなことができないかもしれない。これは、“Why?”と訊かれたら“Because.....”と答えるものだという固定観念ができていると、誘うために“Why don’t you.....?”と相手が言ったときに相手の意図を読めないのと似ている。

いつの時点でどのように「要望・依頼」の機能を導入し、子ども達も使えるようにしていくのか。母語での言語生活で子ども達がすでに頻繁に使っているコミュニケーション機能に着目するなら、小学校段階から「要望・依頼」の目的で教師が“Can you.....?”などの表現を使う場面と、子ども達自身もそのように使う場面がもっと与えられるべきではないだろうか。

## 引用文献

- Bruner, J. (1983) *Child's Talk: Learning to Use Language*. New York & London: Norton.
- Fukushima, M. (1989) "Bruner's Approach to Continuity in Language Acquisition." Association for the Study of Humanities. *Journal of Humanities* VII.
- Grieve, R. and Hoogenraad, R. (1979) "First Words." Fletcher, P. and Garman, M. (eds.) *Language Acquisition*. Cambridge University Press.
- McNeill, D. (1970) *The Acquisition of Language*. Translated by Sato M. et al. Tokyo: Taishukan, 1981.
- 水島梨紗 (2017) 「第10章 相互作用の中で生じる発話の意味と働き」酒井英樹・滝沢雄一・亙理陽一 (編) 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ～小学校外国語科内容論』三省堂
- 文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック 実習編」:  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_3.pdf) (2023年1月23日取得)
- Reich, P. A. (1986) *Language Development*. New Jersey: Prentice-Hall.
- Yanase, M. and Green, F. L. (2008) *Input-Output: A Handbook of Everyday English Communication*. Tokyo: NAN'UN-DO.